

The Personalities

Muture メンバー解体新書

2022年4月の創立メンバーは5名。丸井グループとGoodpatchで一目置かれていた“個性豊かなメンバー”が結集しました。そこに新規採用の2名が仲間入り。やわらかな頭脳と繊細な感性を持ち、思考・行動は型にはまらず、人としての色やカタチも多彩なメンバーです。7名がどんな化学反応を起こし、社会にどんなインパクトをもたらすのか。歴史の目撃者として、まずは一人ひとりのパーソナリティをチェックしてみましょう。

7つの個性に5つの質問

Q1 座右の銘とその理由

Q2 自身のキャリアと強みについて

Q3 Mutureに参加しようと思った理由とめざす未来

Q4 自身で思う、Mutureが大切にしていること

Q5 最近ハマっているコト・モノ



芝尾 崇孝 | TAKAYUKI SHIBAO
CHIEF EXECUTIVE OFFICER

大企業がUX視点になれば、
新しい価値観を持つ方々と
可能性豊かな共創が生まれていく。

- A1 「誠実、謙虚、努力」。孔子の『論語』に基づいた高校の時の校訓です。新しいことに挑戦をする中で、自分一人の力は無力であり、多くの人と共創こそが大事だと気づいた時、自分を律してくれる不思議な言葉となっています。
- A2 個人やスモールプレーヤーでもリアル店舗への出店に挑戦できる仕組みなど、世にないサービスを共創で起こし続けてきました。自分にはスペシャリスト的なスキルはないのですが、多様なメンバー間の潤滑油となり、皆をサポートしながら取り組みを前に推し進めていく力が強みだと認識しています。
- A3 BASE(株)に出向した時、スモールプレーヤーやスタートアップの可能性を目の当たりにし、心が躍る経験をさせていただきました。大企業がUX視点になれば、新しい価値観を持つ方々との接続性がなめらかになり、お互いにとって可能性豊かな共創が生まれていくと確信。Mutureはそれを実現できるチャンスと考えました。
- A4 世の中の流れや“両親会社”の想いを踏まえ、考え抜いた「相利共生の未来を実現する」という夢があります。Mutureではこの夢がボスであり、メンバー全員が奉仕者です。奉仕者であるメンバー全員がフラットな関係で未来に向けた対話をし、可能性や納得性を醸成しつつ、意思決定をするスタイルが何より大切と考えています。
- A5 中学時代からベースギターを始め、今でもバンド活動を細々と続けていますが、コロナ禍を契機にDTM(デスクトップミュージック)にハマり出しました。



筋 大介 | DAISUKE AZAMI
EXECUTIVE OFFICER

Mutureマインドを持ち続け、
ビジネスの世界に
潤いをもたらしたい。

- A1 稚拙な表現ですが、「ピンチはチャンス」です。ジャック・マーの「たくさんの失敗をしてきたが、あきらめるといふ最大の失敗はしなかった」という言葉も好きです。チームには混乱期が必ず訪れますが、それこそが成功の兆しですし、偉業にはピンチがつきものです。
- A2 Web制作、企業ブランディング、デジタルメディアと経験業界は幅広く、その中でデザインとディレクションを軸に開発から表現まで顔を出してきました。ジェネラリストなので特徴づけも難しいですが、自身でまずやってみる越境マインドや、あらゆる職種と会話してきたコミュニケーション能力に強みがあると思います。
- A3 Goodpatchで挑戦的なテーマで組織貢献をしたいと思っていた時期にお話をいただき、「経営とデザイン」という領域は、自身と組織の成長が重なるテーマと感じ、キャリアの数年間を投じて挑戦したいと思いました。働く意義をあきらめず仕事に楽しく取り組める組織づくりを、経営とデザインの実現したいです。
- A4 夢として掲げた「相利共生の未来を実現する」ことからブレないこと。「均衡・包摂・循環」を体現する行動を取り続けること。難しい局面もしばしば訪れますが、このマインドを持ち続けることで、一般的にドライなものや表現されることも多いビジネスの世界に潤いをもたらしていきたいです。
- A5 週末の料理。我流で技術はありませんし、特別な料理をつくっているわけではないのですが、自分なりにお酒との組み合わせを考えながら楽しんでます。

- A1 「度胸・愛嬌・すっとんきょう」。子どものころ読んだ小説に出てきたフレーズです。本の中での意味は正確には覚えていないのですが、「一歩踏み出す勇気と笑顔とユーモアがあれば、だいたい大丈夫!」と解釈しています。
- A2 企画部門中心に10年で8部署を経験。新規部署立ち上げや中期経営計画など、新しいものにトライする機会を多くいただきました。特定領域の専門性はありませんが、その分俯瞰して物事を見る癖や早期に全体を理解し、行動するスピードは養われました。短い期間でのチーム力向上には、メンバーの強みを活かした雰囲気づくりが大切だと思っています。
- A3 就活の際、「より多くの方が、自分の人生を楽しみと思える瞬間を増やすこと」を人生の目標として定めました。また、仕事で一番大切にしているのは「メンバーが仕事を楽しいと思えること」です。一人ひとりがイキイキとバリューを発揮することが、より大きな影響力を発揮すると考えているためです。Mutureの経営に携わることで事業・組織両面から目標に向き合えると感じ、手を挙げました。
- A4 会社としては「相利共生の未来を実現する」「均衡・包摂・循環」を体現すること。そのために個人としては、誠実に「ヒト」に寄り添い続けることを大切にしています。Mutureの一番の資産はヒトです。さまざまな判断をする時、誰かの想いを蔑ろにしていないか、より個々の力を発揮できる方法はないかを考え続けています。
- A5 クイズ! 子どものころから知らないことを調べるのが好きで、雑学をまとめていたりしました。いつの日かクイズ大会に出場するのが目標です!



田邊 亜矢 | AYA TANABE
EXECUTIVE OFFICER

Mutureの一番の資産はヒト。
より個々の力を発揮できる方法を
考え続けています。



中村 紘也 | HIROYA NAKAMURA
EXECUTIVE OFFICER

プロダクトの成功と
働く人の「しあわせ」が
トレードオンになる未来へ。

* 経営に革新を起こせる人材発掘と育成を目的として、2017年より開始した丸井グループの次世代経営者育成プログラム

- A1 「その葛藤があなたを強くした。迷いがあるから賢くなれる。欠点があるから強くなれる」。映画『ウィンストン・チャーチル／ヒトラーから世界を救った男』の中でのセリフです。自分を肯定できるきっかけになった言葉です。
- A2 丸井グループでは、スタートアップ投資部門の立ち上げと、新規事業の立ち上げを経験させていただきました。自分の意思が問われ続ける環境下で、そのやりがいとつらさを学ばせていただいたことが、今 Muture で生きています。逃げたくなる時ほど逃げずに立ち向かえた経験が、難題に挑戦する勇気を与えてくれているように感じます。
- A3 「いつか経営を」という想いを持っていたので、大変ありがたい機会をいただけたと思っています。戦略と実行の奥深さ、自分の頭で考えるのを止めないことをCMA(共創経営塾)*で学び、それが想いを強くした原点かもしれません。Mutureでは、プロダクトの成功と働く人の「しあわせ」がトレードオンになる未来を実現すべく、難題から目を背けず、コトとヒトに向き合い続けたいです。
- A4 「相利共生の未来を実現する」。私たちが皆で夢見た未来を実現するため、アウトプット、アウトカム、そしてそのプロセスにおいて、何事にも誠実に取り組み続けます。常に「均衡・包摂・循環」に立ち返り、一つひとつの意思決定に対して妥協せず、皆で納得しながら進めていきたいと考えています。
- A5 健康のために始めた「夜ランニング」にハマっています。走っている時は何も考えずに、今に集中できるので、ある種、心のデトックスになっていて気持ち良いです。

- A1 「現実が正解だ」。立川談志師匠の言葉です。昔見たドラマ『赤めだか』の中で出会い、ずっと心に残っています。時代が悪い、世の中が悪いだの言っても仕方がない。現実をとらえて分析し、行動して変えていけという、厳しくも背筋の伸びる言葉です。
- A2 WebからUI、そしてブランディングへとデザインを軸にして少しずつ領域を広げてきました。また、企業のビジョンを描いたり、カルチャーを醸成したりすることで、働く人が自分の仕事に自信とやりがいを感じられるよう、組織を内側からデザインすることに取り組んできました。これからも感情や想いを言葉に変換し、ストーリーを紡いでいきたいです。
- A3 長くクライアントワークをやってきたこともあり、信頼の置ける仲間と手触り感を持って事業や組織を育てていくことに挑戦してみたかったというのが大きな理由です。「相利共生の未来を実現する」という自分たちが心から信じている夢に向け、社会との関係を築きながら、かわかる人たちが皆、自分自身を誇れるような事業・組織をつかっていきたいです。
- A4 「相利共生の未来を実現する」を体現し続けること。私たちの夢であり、すべての軸となるものです。これが崩れるとMutureは色のないただの箱になってしまいます。私たちがここにいる理由、このメンバーである理由、Mutureがやろうとしていること——そのすべてが詰まっている言葉です。
- A5 ワインが好きで、休日はキッチンドリinkerと化しています。旅行先では、その土地の食材を使ったレストランでワインと食事のペアリングをするというプチ贅沢を楽しんでいます。



米永 さら沙 | SARASA YONENAGA
EXECUTIVE OFFICER

時代が悪い、世の中が悪いだの
言っても仕方ありません。
現実が正解だ!



佐藤 忠輔 | TADASUKE SATO
UX DESIGNER

真の意味で企業がDXに成功し、
不確実性に対して前向きに
取り組める社会をつくりたい。

- A1 「我々の間には、チームプレーなどという都合の良い言い訳は存在せん。あるとすれば、スタンドプレーから生じるチームワークだけだ」。『攻殻機動隊』というアニメの中のセリフです。とがっているように思えますが、共通する理念をチームのメンバー一人ひとりが持ち、それぞれが良い方向に向かい、コミットしていくことだ、と解釈しています。
- A2 学生時代からずっとデザイン系で、UXデザイナーとして働いてきました。Webの体験設計から情報設計、プロダクト・事業のサービスデザインを行っています。もちろんリサーチやワークショップも得意ですし、採用広報などもやってきました。「これ」という強みはなく、事業を推進するために何でもする人間です。
- A3 クライアントワークから事業会社まで経験してきましたが、ただプロダクトを請け負ってつくのではなく、「より良いプロダクトを生み出せる組織を醸成する」という新しい視点に惹かれました。ツールを導入するだけではなく、真の意味で企業がDXに成功し、不確実性に対して前向きに取り組める社会をつくりたいです。
- A4 フラットに物事を見て、意志を持って進めることです。社内事情や組織の論理があることも理解していますし、サービスをつくってきた者として、あるべき進め方、より良い考え方のアセットもあります。どちらかに片寄るのではなく、フラットに事象をとらえ、「やるべきことをやっていく」の精神で進めていきたいです。
- A5 サウナ。サウナなんですよ。たいていサウナにいます。サウナで衣食住を済ませています。
- A1 「センスは知識からはじまる」。クリエイティブディレクター水野学さんの著書タイトルでもあるこの言葉は、特にデザイン領域で価値を発揮しようとする、すべての人が心にとめておく必要があります。センスは、実は後天的な蓄積によってのみ磨かれるということです。
- A2 インターネットビジネスの黎明期にデザイナーとしてキャリアを開始し、WebディレクターからWebシステムのPL/PMに。スタートアップでプロダクトマネージャーを経験後、業務システムのサービスデザインを手がけました。多様な業界を経験したことで、そのtoB/C/Eの知見が役に立ち、DX・組織コミュニケーション支援を得意としています。
- A3 事業会社も支援会社も経験してきた中で、事業のコア部分の決定や推進に過去の専門性を活かすことができないかと考えていました。そうした折に、事業会社と支援会社が互いの専門性を持ち寄り、相利共生で創造できる場を発見し、これをチャンスととらえました。丸井グループの事業を成功させるだけでなく、成功スキームを社会全体に広めたいです。
- A4 Mutureで掲げられている「相利共生の未来を実現する」は、個人的なパーパスとも共鳴しています。これを実現するだけでなく社会全体に広めるためには、再現性を担保したいもの。それには互いに敬意を持って多様性を受容する中で、一人ひとりが自己効力感を持ちながら成長する環境が条件で、この環境を変化・進化させていく時期と規模の見極めをしていきたいです。
- A5 5年ぶりのカムバックが実現したK-POPグループの応援。15年や20年という時を共に過ごし、共に年を取ることが残酷でもあり、ただただすばらしく、尊いと思いました。



曾根 誠 | MAKOTO SONE
UX DESIGNER

多様性を受容する中で、
一人ひとりが自己効力感を持ち、
成長できる環境を進化させていく。